

一路
北山村へ。
いかだ
筏師の道を
辿って
みました。



今は、キラキラと光の粒を揺らす広い川面も
昭和30年代の後半までは、杉・檜の丸太で覆いかくされて
いました。ここは熊野川の河口、新宮です。

新宮が筏流しの終着点、筏師たちは2日ほどかけて、徒歩で北山村まで戻っていました。

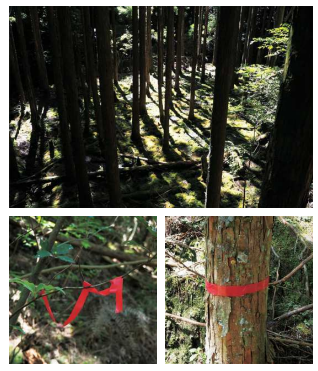
かつて林業は紀州熊野の花形産業でした。重たい材木を
大量に、スピーディに運ぶ手段が筏流しでした。我が北山村
は(600年の歴史と言われる)勇猛果敢な筏師で有名だっ
たのです。そんな材木運搬業者としての筏師も昭和38年、
陸路をトラックで運べるようになって役目を終えました。

しかし筏は、村民や元筏師の要望で昭和54年に観光用と
して復活、日本で唯一の本物の筏流しが行われるようになり
ました。スリル満点、一度体験なさることをお勧めします。

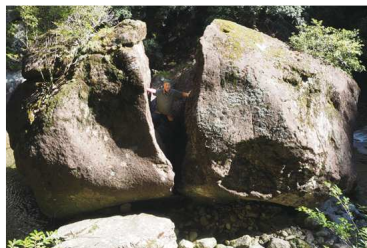
さて、今回はまだ自動車などの無かった(明治期、おもに
江戸時代)のお話。川を下って行った筏師たちは、山深い踏み
分け道を進んで村に戻っていました。その道を「筏師の道」と
呼びます。阿田和を通って行くルートと、鮎田を通って行く
ルートの二つがあったといいます。どちらも険しい山道で遭
難者も出たといいます。行きは激流下り、帰りは険しい山道、
そこには命がけの山の男の
物語があったのでしょう。今
では大半が自動車道になっ
ていますが、そうならない
部分の山道に、少しでも分
け入ってみました。



●沢沿いの濡った土地には各種のコケが見られます。



●何処が道だか分からない場所では赤テープが目印になります。



●この石垣、江戸時代に積まれたものでしょうか？



筏師の道

ゴール
北山村

スタート
新宮



●地蔵峠の地蔵尊。道中の安全を祈願したのでしょう。



●素朴な庚申塚。筏師も手を合わせて通ったのでしょうか？



●「桐原自然散策コース」の案内板



●山中で目を引いた真っ赤なマルミノヤマゴボウ

(ここで紹介したルートではありませんが)筏師主宰の「筏師の道」を歩くツアーも、時々催されます。興味のある方はじゃばら村センターにお問い合わせください。

片川から地蔵峠まで、往復約1時間半のステキな森林浴でした。

かつて筏師たちが、家路を急いだ道だと思つと、江戸時代にタイムスリップした気分です。この佇まいはきっと何も変わっていないのでしょう。もちろん今の人はこの道を、生活道として使ったりしていません。しかし、行程の三分の一の辺りにある桃太郎岩の前後100m程は、一枚岩の緩やかな滑滝、天然のウォータースライダー付きのプールで、地元の通は遊びに来るといいます。この日は平日、もちろん誰も出会いませんでした。あ、そうそう、森の中で突然ウリ坊(イノシシの子供)に出会ってびっくり! 全くすごい所です!

写真・文章:石川源(いしかわみなと)フォトエッセイスト

